



2023年6月30日

各位

会社名 エンシュウ株式会社
代表者名 代表取締役社長
社長執行役員 鈴木 敦士
(コード：6218 東証プライム)
問合せ先 管理本部
経営管理部長 大野 裕哉
(TEL. 053-447-2111)

上場維持基準の適合に向けた計画に基づく進捗状況について

当社は、2023年3月27日に、「プライム市場の上場維持基準への適合に向けた計画に基づく進捗状況について」を提出し、その内容について開示しております。

2023年3月末時点における計画の進捗状況等について、下記の通り作成しましたので、お知らせいたします。

記

○当社の上場維持基準への適合状況の推移及び計画期間

当社のプライム上場維持基準への適合状況について、その推移を含め下表のとおりとなっており、流通株式時価総額については、判定基準日である2023年3月末時点において引き続き不適合の状態となっております。当社は、流通株式時価総額、平均売買代金について、2021年5月13日に公表した中期経営計画（2022年3月期～2025年3月期）の取り組みを継続することで、すべての項目において中期経営計画の達成状況が公表される2026年3月期までに上場維持基準を充たすことが可能と思慮しており、引き続き各種取り組みを進めてまいります。

		株主数 (人)	流通株式数 (単位)	流通株式 時価総額 (百万円)	流通株式比 率 (%)	平均売買代 金 (百万円)
当社の適合 状況及びそ の推移	2021年6月末	4,082	39,251	3,545	61.7	6
	2022年12月末	-	-	-	-	18
	2023年3月末 ※	3,950	37,473	2,560	58.9	-
上場維持基準		800	20,000	10,000	35	20
計画期間		-	-	2026年 3月末	-	2025年 12月末

※2023年3月末時点での東証からの審査結果の通知に基づいた状況となります。

○上場維持基準の適合に向けた取り組みの実施状況及び課題（2023年3月31日時点）

2023年3月27日に開示いたしました「上場維持基準の適合に向けた計画に基づく進捗状況について」に記載の通り、引き続き新中期経営計画（2021-2025）で開示しました課題への取り組みを通し、会社の収益力を向上させることで株価の上昇を図り、2026年3月期までに流通株式時価総額10,000百万円以上の達成を目指してまいります。

なお、新中期経営計画に対する進捗状況ですが、下表のようになっており、新中期計画3年目である2024年3月期の業績見通しは当初の計画を下回る見込みとなっております。これは特に工作機械事業における自動車業界のEV量産化に向けた投資立上の遅れが大きな要因と捉えており、計画達成に向けて、以下に記載している課題への取り組みを継続してまいります。

各取り組みについてご報告いたします。

新中期業績計画の進捗状況

		2022年3月期	2024年3月期	2026年3月期
売上高 (百万円)	計画	24,900	30,000	50,000
	実績・見込	(実績) 23,904	(見込) 28,600	-
営業利益 (百万円)	計画	400	1,500	3,500
	実績・見込	(実績) 751	(見込) 1,050	-
営業利益率	計画	1.6%	5.0%	7.0%
	実績・見込	(実績) 3.1%	(見込) 3.7%	-

(基本方針)

- ・中期経営計画の推進による、売上高および利益向上に伴う株価向上
(課題)
- ・売上高の拡大：市場拡大
- ・利益率の向上（コスト削減）：競争力のある Factory 実現
(取組内容)
- ・営業力の強化、新しいマーケットの営業基盤構築
- ・顧客ニーズを先取りした開発
- ・市場の変化に対応できる技術・製造本部の構築、ものづくり技術の進化

①営業力の強化、新しいマーケットの営業基盤構築

取り組み状況及び課題については、2023年3月27日に開示いたしました「上場維持基準の適合に向けた計画に基づく進捗状況について」に記載の通り、特に工作機械事業関連における受注拡大が引き続き課題と捉えております。汎用機事業については商社様との継続的な関係強化に加えて、2023年4月からは受注が今後見込まれる北米やアセアン地域向けの営業人員補強を実施しており、システム事業については、EV量産化へ向けた情報収集、既存のエンジン市場においては既存設備の保守や改造需要の取り込みに向けた営業活動を進めております。また新規市場では医療業界向けの受注内定を頂いており、これを足掛かりに新市場拡大を進めてまいります。また、2023年4月からはサービス部門への人員補強によるアフターサポート強化と合わせた受注活動の展開、さらにはシステムインテグレーター子会社であるエンシュウコネクティッドの増員等、事業構造を見直しております。一方、部品加工関連事業においては、EV部品含め多くの引き合いを頂いており、今後も積極的な営業活動を継続し受注拡大を進めてまいります。

②顧客ニーズを先取りした開発

こちらの取り組み状況及び課題についても、2023年3月27日に開示いたしました「上場維持基準の適合に向けた計画に基づく進捗状況について」に記載の通り、開発部門がより長期的な目線で、独自の開発を主体的に進めていけるよう、2023年4月より、開発部を社長直下の部門とし、特に自動車業界のEV向け開発チームもグループ化し、EV投資の本格化に向けた開発に繋げる体制としております。また一層の顧客ニーズ先取りに向けて、マーケティング組織の見直しも実施し、営業や企画部署からの情報を基に、市場や顧客ニーズに合わせた開発ができる体制を再構築しております。

③市場の変化に柔軟に対応できる技術・製造部門の構築、ものづくり技術の進化

こちらの取り組み状況及び課題についても、2023年3月27日に開示いたしました「上場維持基準の適合に向けた計画に基づく進捗状況について」に記載の通り、引き続き利益率の改善が課題となっております。生産管理部門による生産統制と特に部品加工事業においては、仕事量が拡大している中でも、製造や技術部

門を主体としたロス改善による原価低減、自動化による労務費改善、また原価高騰に対する価格転嫁も進め、利益率改善に繋げてまいります。

以上